

□生活科学研究科博士前期課程の研究指導教員の決定と研究指導について

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題と自らの専門分野、指導環境などに基づき、学生とともに研究課題を定め、主たる研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に資する授業科目について、シラバスや履修モデルを参考に履修指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名が担当する。

■研究指導教員の決定手順

1. 学生は、出願前に希望する教員と面談を行い、希望する研究指導教員を記入した大学院入学選抜試験の出願書類を提出する。
2. 入学後、研究科教授会において、研究指導教員を決定する。

■副指導教員制度

1. 副指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導に関する相談や調整を行う。
3. 副指導教員は、学生ごとに2名が担当する。

■研究指導計画

本研究科における研究指導計画は、以下の1～4のとおりである。指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次前期）

学生は、指導教員とともに研究指導計画書の研究計画を記入する。

 - (1) 学生は、指導教員と相談して先行研究の整理、研究課題の明確化などを行い、研究計画を立案する。
 - (2) 指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法、文献検索方法などを指導する。
 - (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究計画書に研究指導計画を記載し、研究計画に基づき、課程修了までの研究計画を1年ごとに記載し、学生と副指導教員に明示する。
2. 研究の遂行（1年次後期～2年次前期）
 - (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、実験、調査などを行う。2年次では、定めた研究方法を実行してデータ収集や

解析などを行い、研究結果をまとめる。

- (2) 指導教員は、研究の進捗状況に応じた指導を適宜行う。
- (3) 指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。

3. 修士論文の作成（2年次後期12月頃まで）

- (1) 学生は、中間発表を行い、修士論文を執筆する。
- (2) 指導教員は、修士論文の形式、作法などを指導する。

4. 修士論文の提出（2年次1月中頃）

- (1) 学生は、修士論文や梗概を期日までに提出する。
- (2) 学生は、学位論文発表会で発表し、質疑応答を行う。
- (3) 指導教員は、学位論文審査委員会終了後、研究指導報告書および修士論文審査結果の要旨を研究科教授会に提出し、承認を得る。